

事業ID : 2024003616

事業名 : 海と日本PROJECT in 青森県（エリア・海と日本2024）

団体名 : 一般社団法人海と日本プロジェクトin青森県

極秘

日本財団御中

海と日本プロジェクトin青森県 実施報告書

2025年3月31日

一般社団法人海と日本プロジェクトin青森県

事業ID : 2024003616

事業名 : 海と日本PROJECT in 青森県（エリア・海と日本2024）

団体名 : 一般社団法人海と日本プロジェクトin青森県

極秘

1.海の取材動画制作・放送

1-（1） 海の取材動画放送リスト

動画ID	放送日	放送時間	放送番組名	放送尺 (秒)
A01	2024/7/3	13:55-14:00	海と日本プロジェクトin青森県	180
A02	2024/7/4	13:55-14:00	海と日本プロジェクトin青森県	180
A03	2024/7/5	13:55-14:00	海と日本プロジェクトin青森県	180
A04	2024/7/8	13:55-14:00	海と日本プロジェクトin青森県	180
A05	2024/7/9	13:55-14:00	海と日本プロジェクトin青森県	180
A06	2024/7/12	13:55-14:00	海と日本プロジェクトin青森県	180
A07	2024/7/19	13:55-14:00	海と日本プロジェクトin青森県	900
A08	2024/7/26	13:55-14:00	海と日本プロジェクトin青森県	180
A09	2024/7/30	13:58-14:13	海と日本プロジェクトin青森県 ミニ番組 海のそなえ	900
A10	2024/8/2	13:55-14:00	海と日本プロジェクトin青森県	180
A11	2024/8/8	13:58-14:13	海と日本プロジェクトin青森県	900
A12	2024/8/9	13:58-14:13	海と日本プロジェクトin青森県	180
A13	2024/8/16	13:58-14:13	海と日本プロジェクトin青森県	180
A14	2024/8/23	13:58-14:13	海と日本プロジェクトin青森県	180
A15	2024/8/30	13:58-14:13	海と日本プロジェクトin青森県	180
A16	2024/9/6	13:58-14:13	海と日本プロジェクトin青森県	180
A17	2024/9/13	13:58-14:13	海と日本プロジェクトin青森県	180
A18	2024/9/20	13:58-14:13	海と日本プロジェクトin青森県	180
A19	2024/10/4	13:58-14:13	海と日本プロジェクトin青森県	180
A20	2024/10/11	13:58-14:13	海と日本プロジェクトin青森県	180
A21	2024/10/18	13:58-14:13	海と日本プロジェクトin青森県	180
A22	2024/10/25	13:58-14:13	海と日本プロジェクトin青森県	180
A23	2024/11/1	13:58-14:13	海と日本プロジェクトin青森県	180
A24	2024/11/6	23:56-00:11	海と日本プロジェクトin青森県	900
A25	2024/11/8	13:58-14:13	海と日本プロジェクトin青森県	180
A26	2024/11/14	13:58-14:13	海と日本プロジェクトin青森県	180
A27	2024/11/15	13:58-14:13	海と日本プロジェクトin青森県	180
A28	2024/11/21	13:58-14:13	海と日本プロジェクトin青森県	180
A29	2024/11/22	13:58-14:13	海と日本プロジェクトin青森県	180
A30	2024/11/25	13:58-14:13	海と日本プロジェクトin青森県	900

1-（1） 海の取材動画放送リスト

動画ID	放送日	放送時間	放送番組名	放送尺 (秒)
A31	2024/11/28	13:58-14:13	海と日本プロジェクトin青森県	180
A32	2024/11/29	13:58-14:13	海と日本プロジェクトin青森県	180
A33	2024/12/5	13:58-14:13	海と日本プロジェクトin青森県	180
A34	2024/12/6	13:58-14:13	海と日本プロジェクトin青森県	180
A35	2025/02/06	16:25-17:50	わっち！	60

1-（2） 海の取材動画 詳細

動画ID	A01
動画タイトル	海ノ民話のまちプロジェクト- かんだ蟹
動画コピー	民話 かんだ蟹を紹介！
Youtube 概要説明文	<p>3月24日、25日、「海ノ民話サミット 2023」が東京都にある文藝春秋ホールで開催されました。</p> <p>会場には、さまざまな分野の有識者や作家が参加して、日本各地に伝わる民話と制作されたアニメーションの活用について語り合いました。地元小学校へ行っての上映会を開催し、陸奥湾でのトゲクリガニが豊富に水揚げされる様子や、海的环境や資源への関心が高まりる内容となっております。</p>



1-（2） 海の取材動画 詳細

動画ID	A02
動画タイトル	猿ヶ森砂丘を守れ！
動画コピー	日本一広い砂丘！猿ヶ森砂丘の自然を守れ！
Youtube 概要説明文	<p>猿ヶ森砂丘は、約 17km 続く日本最大級の砂丘です。</p> <p>猿ヶ森砂丘は、下北ジオパークの重要な地点にもなっています。</p> <p>キレイな海岸にしかない“鳴き砂”や“ハマボウフウ”の宝庫なんです。</p> <p>残念ながら近年は減ってきていますから、貴重な資源を保全するためにゴミの無いキレイな海岸を守り続けていくことが大切なんです。</p>



1-（2）海の取材動画 詳細

動画ID	A03
動画タイトル	夏泊・大島ホタテ拾いと磯遊び
動画コピー	参加者1000人！ホタテ拾いと磯遊び！
Youtube 概要説明文	<p>「ひらないの春まつり」夏泊半島大島特設会場は、ホタテ拾いや磯遊びに、たくさんの人で賑わいました！</p> <p>昨年の高水温で稚貝が大量死した影響で、ホタテの品薄感が続いています。</p> <p>イベント通しても私たちの思いと漁師さんの思い汲み取りながら、海の資源・観光資源を守っていきたくと思っています。</p> <p>そして、町の観光名所としての大島を知ってほしい、平内のホタテをもっと食べてほしいとの思いで</p> <p>企画しました。1000 人も参加していただいて、大いにPRできました。</p>



1-（2） 海の取材動画 詳細

動画ID	A04
動画タイトル	漁船でカマイルカの観察調査
動画コピー	イワシを追ってむつ湾を回遊！カマイルカ調査！
Youtube 概要説明文	<p>主に日本近海に生息するカマイルカは、毎年4月～6月頃にイワシを追って陸奥湾を回遊します。</p> <p>多い時には300頭を超える大群に遭遇することがあるそうです。</p> <p>今年はイルカの出現率は例年に比べて、少ない気がしています。</p> <p>イルカたちにとって命をつなぐ大切な海…、</p> <p>私自身も身近な「海の環境」について考える貴重な体験となりました。</p>



1-（2） 海の取材動画 詳細

動画ID	A05
動画タイトル	浅虫海洋生物学教育研究センター創立百周年
動画コピー	大正時代から青森の海を研究
Youtube 概要説明文	<p>大正13年に設立された「東北大学大学院生命科学研究科附属浅虫海洋生物学教育研究センター」はこの7月に創立100周年をむかえます。その記念行事として施設の見学や貴重な資料の展示が企画されました。</p> <p>「それは 君 大変おもしろい。君 ひとつ やって見たまえ」畑井教授の言葉です。陸奥湾でのホタテ養殖にも、ここでの研究が活かされているそうです。じつは私たちに身近な存在。</p> <p>海洋生物学の普及は、“海の未来”に可能性を感じます。</p>



1-（2） 海の取材動画 詳細

動画ID	A06
動画タイトル	大久喜小学校 しおかぜ遠足ウニむき体験
動画コピー	自分で作ったおいしいうに丼！
Youtube 概要説明文	2024年6月14日（金）大久喜漁業生産部会作業場にて、地元の八戸市立大久喜小学校の児童たちが「しおかぜ遠足ウニむき体験」を行いました。ウニのから剥き体験を通して海に愛着を持ってもらうことを目的に、地域一丸となって長年取り組んでいる行事です。子供たちは白米を持参して、自分で剥いたウニをその場でうに丼にして食べることで、海を五感で感じていました。



1-（2） 海の取材動画 詳細

動画ID	A07
動画タイトル	蓬田中学校の地域貢献活動
動画コピー	地元の景勝地 玉松海水浴場・玉松台を守りたい
Youtube 概要説明文	2024年7月9日 蓬田中学校の全生徒と蓬田小学校、地元の婦人会など約150人がが地元の景勝地「玉松海水浴場・玉松台」の清掃活動を行いました。玉松台には、蓬田村の指定文化財となっている樹齢300年越えの玉松があり、江戸時代には海から見える玉松を目印として、灯台の役割を果たしていました。長年続けているこの清掃活動で、地元や海に対する誇りを育んでいます。



1-（2） 海取材動画 詳細

動画ID	A08
動画タイトル	日本財団 海と日本人に関する意識調査2024
動画コピー	日本人の海に対する意識の最新の傾向が明らかに！
Youtube 概要説明文	日本財団は、「海と日本人」に関する意識調査をし、7月11日に東京都内で発表した。この意識調査は日本人の海への意識や行動の実態を明らかにするため、2017年から2年ごとに実施している。今年は15～69歳までの男女1万1600人に実施し、小学生親子も初めて対象とした調査を実施した。登壇した日本財団の海野光行常務理事によると、調査結果から日本人の感情面でも海離れが明らかになってきたと解説し、海の魅力をつたえられるような施策を売っていく必要があることを呼びかけた。



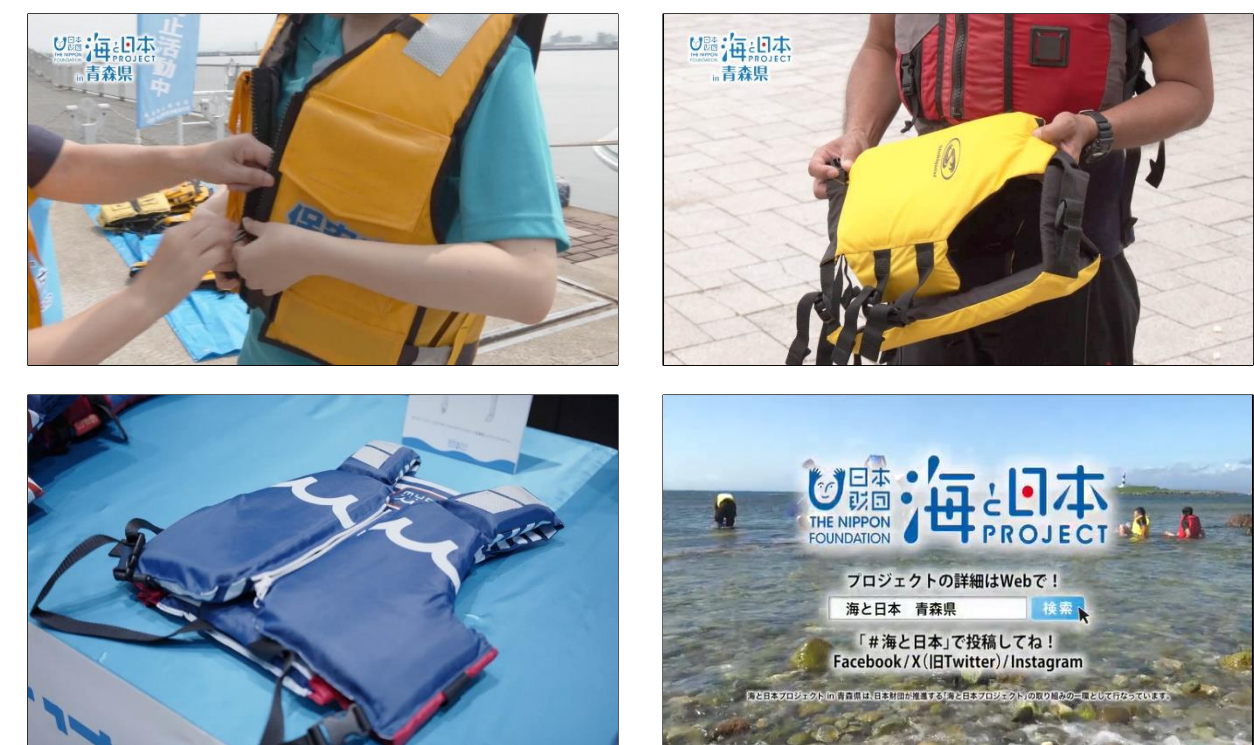
1-（2）海の取材動画 詳細

動画ID	A09
動画タイトル	海を安全に楽しむために今備えられることとは。
動画コピー	水難事故対策の常識を疑う
Youtube 概要説明文	日本財団は、6月19日に東京都内にて海のそなえシンポジウムを開催し、海の事故防止、海のそなえの重要性について話し合われました。海に落下するとどうなるかを知っておくことで、過信をせずに心構えることができます。 青森県内各地でも、着衣泳や消防、ライフセーバーなどの合同訓練が行われ、水難事故への備えをしています。



1-（2） 海の取材動画 詳細

動画ID	A10
動画タイトル	海のそなえ
動画コピー	フローティングアイテムを身に着けよう
Youtube 概要説明文	海で事故に遭ったとき、私たちの身を守ってくれるフローティングアイテム。最近では子供用のものなど、様々な種類が発売されています。フローティングアイテムを扱っている青森市のそふえ釣具によると、最近では蟹とりなど、海に遊びに行くときに子どもに着用させる親も多いとのこと。海に転落した人の生存率は、ライフジャケットがある場合だと87%と、着用していない場合の49%と比較して大きな差があります。フローティングアイテムは種類も増えているので、用途にあったものをしっかり着用して、万一の場合に備えましょう。



1-（2） 海の取材動画 詳細

動画ID	A11
動画タイトル	あおもりむつ湾ホタテ調査団
動画コピー	むつ湾ホタテが危機?! 調査しました！
Youtube 概要説明文	青森県の特産品である「むつ湾ホタテ」ですが、実は地球温暖化で養殖に大きな影響が出ています。 栄養豊富で波も穏やかな陸奥湾はホタテ養殖に適していますが、海水温が26度を超えるとホタテの稚貝が斃死してしまいます。また、ホタテ養殖で発生してしまう残渣についてもアップサイクルの取り組みなどを学びました。



1-（2） 海の取材動画 詳細

動画ID	A12
動画タイトル	蕪島でSUP YOGA体験！
動画コピー	ウミネコと波と潮を感じて
Youtube 概要説明文	OUTDOORBOX RIVERRUNSが開催しているSUP YOGAを蕪島で体験しました。SUP YOGAとは、スタンドアップパドルボードの上で水の上に浮いて行うヨガ・アクティビティのことです。風や海の匂いなど、自然の変化していく感覚を味わえるのが一番の魅力です。海との一体感を全身で感じてきました。



1-（2） 海の取材動画 詳細

動画ID	A13
動画タイトル	海への思いこめた青のねぶた
動画コピー	～ねぶた師の塚本さんがこめた思いとは～
Youtube 概要説明文	青森ねぶた祭、その中で、ひときわ輝きを放つ一台の大型ねぶたがありました。青森山田学園の大型ねぶたです。ねぶた師の塚本利佳さんは宮本武蔵と巨鯨という題材に、海への想いを込めました。そして今年もCHANGE FOR THE BLUEの前ねぶたが出陣。青森山田学園の生徒たちが道路のごみ拾いを行いました。



1-（2）海の取材動画 詳細

動画ID	A14
動画タイトル	海と人をつないで 八甲田丸60周年
動画コピー	八甲田丸 港フェスタ2024
Youtube 概要説明文	2024年7月15日海の日に、八甲田丸港フェスタ2024が開催されました。会場には海にちなんだブースやアトラクションが数多く出店し、八甲田丸の元機関長による船内ツアーも行われました。八甲田丸は本州と北海道を結ぶ重要な役割を担い、人流や物流の中心的存在でした。青森港は2025年には開港400年の節目を迎えます。元機関長の葛西鎌司さんは、八甲田丸を青森のシンボルとして青森港で残してほしいと語ります。



1-（2） 海の取材動画 詳細

動画ID	A15
動画タイトル	海のテラアート
動画コピー	サイトウパピコさんが表現する青森の海
Youtube 概要説明文	サイトウパピコさんは鶴田町在住のアーティストで、青い海を表現した絵画やアート作品を発信しています。創作活動に悩んだ時期、一人で旅行した沖縄で目にした海の美しさに感動し、改めて日本海の美しさに気づき、“テラアート”テラ(地球)の青や緑 自然を表現するようになりました。



1-（2）海の取材動画 詳細

動画ID	A16
動画タイトル	海を守る研究 JAMSTEC海洋研究開発機構むつ研究所
動画コピー	むつ研究所施設一般公開！
Youtube 概要説明文	2024年8月24日に、JAMSTEC海洋研究開発機構のむつ研究所が一般公開されました。JAMSTECは海や地球を科学的に調べる研究所です。この日は、海洋観測船みらいも5年ぶりに一般公開されました。むつ研究所は、みらいの母校や津軽海峡の調査研究拠点の役割を担っています。海では水温上昇や海水の酸性化という問題が起きていて、2025年度で運用停止予定のみらいに代わって、2026年に就航予定のみらいⅡに研究を引き継ぎます。研究所長の佐々木建一さんは、若い人に海を好きになってもらい将来は海のロマンに挑戦する仲間になってほしいと語ります。



1-（2） 海の取材動画 詳細

動画ID	A17
動画タイトル	海と生きるまさかりの大地
動画コピー	下北半島 海の魅力を巡る
Youtube 概要説明文	下北半島は周りを3つの海に囲まれた自然豊かな場所です。地球の歴史を物語る地形や地質・海岸など18エリアは下北ジオパークと呼ばれています。下北ジオパークガイドの会の小島昭夫さんに、奇岩の海岸ちぢり浜や、石と波が作った岩の穴ポットホール、北部海岸の大地層を案内していただきました。



1-（2）海の取材動画 詳細

動画ID	A18
動画タイトル	うみぽすで地元の海をスター☆にしよう！
動画コピー	海のPRポスターコンテスト
Youtube 概要説明文	うみぽすは地元の海をスター☆にしようという海のPRポスターコンテストで、誰でも参加できる地方創生プロジェクトです。地元の海を盛り上げることを目的に海と日本プロジェクトの一環として毎年行われています。10年目の今年のテーマは「この海に来て」「海を守りたい」「おいしい海」の3つです。青森駅前ビーチで地元の大学生と一緒に海の写真を撮りました！



1-（2） 海の取材動画 詳細

動画ID	A19
動画タイトル	海の幸で笑顔に もりや商店
動画コピー	地元の海のごちそう
Youtube 概要説明文	浅虫の海沿いには、約60年前から営業を続けるもりや商店があります。もりや商店では、陸奥湾の海の幸であるホタテやウニなどおいしい海鮮が味わえます。ただ、近年は海水温の上昇でホタテが大量死し、ホタテが出荷されにくい状況が続いていました。地元のホタテ漁師の田村さんによると、去年と比べると今年は状況が改善され、高水温が続かなければ来年にはおいしいホタテを供給できるとのことです。



1-（2） 海の取材動画 詳細

動画ID	A20
動画タイトル	みんなと考えて取り組みたい青森と日本の海 出張授業
動画コピー	海と日本プロジェクトと回転ずしチェーンのくら寿司が共同で開催！
Youtube 概要説明文	八戸市の小学校で開かれた大手寿司チェーンくら寿司の出張授業 青森県版は、海の問題や食品ロスについて子どもたちに考えてもらおうと、海と日本プロジェクトの一環として行われました。 子どもたち、身近な回転寿司から、海の環境や現状、そして未利用魚の活用について、そして日本の海の魚を未来でもずっと食べられるように、私たちが次にできるアクションを考えて学んでいました。



1-（2） 海の取材動画 詳細

動画ID	A21
動画タイトル	海と人を繋ぐ架け橋 浅虫水族館のお仕事
動画コピー	浅虫水族館の飼育員の仕事の様子をご紹介します
Youtube 概要説明文	<p>私たちと海を繋いでくれる浅虫水族館と飼育員の皆さん。</p> <p>浅虫水族館はイルカショーや海獣館、むつ湾の海を表現したトンネル水槽をはじめ、青森の魚を飼育展示していて、地元の海を学べる水族館です。</p> <p>佐々木さんは主にクラゲ担当の飼育委員。クラゲ水槽についての1日のお仕事についてご紹介します。</p> <p>浅虫水族館の海の生き物たちに会いに来て、皆さんにも海の魅力や海の未来をもっと感じてみませんか。</p>



1-（2） 海の取材動画 詳細

動画ID	A22
動画タイトル	浜の未来のために結集あおもりの漁師祭
動画コピー	青森県各地の漁師が大集結「あおもりの漁師祭」
Youtube 概要説明文	<p>青森各地の漁師が大集合したイベント「あおもりの漁師祭」が10月中旬、浅虫の地で今年初めて開催されました。</p> <p>イベントは漁師の皆さんが自ら内容を考えて開催し、直接お客さんに仕事や海産物を見ていただきたいという思いから始めたイベントです。イベントには、鮮魚の販売の他、漁師カードモデルとの撮影会のほか、若手漁師との婚活イベントも開催。</p> <p>漁師たちと来場者がつながり、笑顔と活気あふれるイベント！漁師の顔が見えると水産物の美味しさも倍増します。</p> <p>この取り組みが青森の豊かな海、そして漁業の仕事や未来のためにつながっていくといいですね。</p>



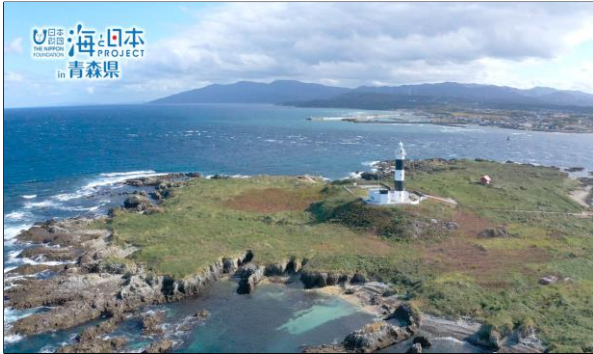
1-（2） 海の取材動画 詳細

動画ID	A23
動画タイトル	幻の高級魚 竜飛岬マツカワを次世代へ
動画コピー	竜飛岬マツカワを受け継ぐ情熱
Youtube 概要説明文	漁獲量が少なく幻の魚とも言われているマツカワガレイは、脂のノリ、身の甘さ、食感もよくカレイの王様とも呼ばれます。株式会社LaLaKiの伊藤明菜社長は、地下240mの青函トンネルから染み出た海洋深層水をくみ上げて、1万5000匹ほどの竜飛岬マツカワガレイを養殖しています。



1-（2） 海の取材動画 詳細

動画ID	A24
動画タイトル	しろくろ灯台とシンクロ 突端FES
動画コピー	大間崎灯台突端FES
Youtube 概要説明文	<p>本州最北端にある大間崎灯台。その灯台は大間崎の沖合から600m先にある弁天島にあります。江戸時代は外国船がよく沈没する危険な地帯だったことから、1921年にこの弁天島に大間崎灯台が作られました。</p> <p>対岸の北海道まで17キロほどしかない国際海峡の安全を支える重要な役割を担い、今から30年ほど前に無人化されました。昼でも目立つように「シロクロ」な灯台は、日本の灯台50選にも選ばれています。</p> <p>その灯台で突端FESというイベントが開催されました。どんなFESだったんでしょうか。</p>



1-（2） 海の取材動画 詳細

動画ID	A25
動画タイトル	JAMSTECとむつ工業の共同開発
動画コピー	むつ工業高等学校の生徒が海洋研究調査の取り組み
Youtube 概要説明文	海洋研究開発機構のむつ研究所と地元の高校生たちが協力して取り組んでいる海洋センサーの共同開発を行っている。高校生ならではの考え方やひらめきをきっかけに、開発を行っている。 高校生がどのようにして海を守る大切さや、海を身近に感じ取ってもらう事、環境問題などに気づいたのかを取材しご紹介します。



1-（2） 海の取材動画 詳細

動画ID	A26
動画タイトル	佐井村に漁師縁組できた若手漁師
動画コピー	漁師縁組で後継者不足を救う
Youtube 概要説明文	下北半島にある佐井村では漁業の担い手を確保するために、全国から漁師を目指す人材を募集する「漁師縁組」の取り組みを行っています。 家洞さんは2016年にこの制度を使って佐井村に移住し、漁師を始めました。 新たな取り組みで後継者不足を防ぎ多くの若者を増やしていく佐井村の取り組みを多くの皆さんに知ってほしいと思います。



1-（2） 海の取材動画 詳細

動画ID	A27
動画タイトル	先人たちから引き継ぐ育てる漁業 海峡サーモン
動画コピー	先人たちから受けついた海峡サーモン
Youtube 概要説明文	青森県むつ市大畑には津軽海峡の荒波にもまれながら養殖しているサーモン「海峡サーモン」があります。海峡サーモンは、ニジマスを津軽海峡の荒波のもとで養殖した青森県下北を代表する人気の魚です。大畑地区はもともとイカ漁が盛んな地域でしたが35年前大不漁で取る漁業から育てる漁業へと舵をきりました。そのおかげでブランドサーモンまで進化した取り組みをご紹介します。



1-（2）海の取材動画 詳細

動画ID	A28
動画タイトル	八戸前沖さば 不漁ピンチから生まれた新商品
動画コピー	不漁から生まれた新商品
Youtube 概要説明文	青森県八戸漁港はイカやサバの水揚げトップクラスの漁港です。その八戸前沖さばが不漁が続いています。元々はサバを使った主力商品「サバ缶バー」という商品を製造していましたが、一時出荷が止まってしまったりと大きな影響が出てしまいました。そこで地元の企業がサバ以外の違う魚を使って開発した商品があります。その商品は青森県の県魚を使ったヒラメです。ヒラメを使ったヒラメのツケ丼の加工品を開発しました。その他にもほかの商品も作って新たな商品開発を行っております。



1-（2） 海の取材動画 詳細

動画ID	A29
動画タイトル	元漁師が取り組む 未利用魚の普及ウマヅラハギの魅力
動画コピー	未利用魚の普及ウマヅラハギ
Youtube 概要説明文	<p>青森県深浦町には漁師飯などを提供している丸福丸直売所があります。その直売所は、元漁師さんが営んでいる直売所。地元で取れる魚を使った漁師飯や魚の加工品などを販売しています。その中で、未利用魚でもあるウマヅラハギの加工品に力を入れています。</p> <p>漁獲量減少・海洋資源不足が叫ばれる中、新たな取組み、そして未利用魚の美味しさと可能性についてお伝えいたします。</p>



1-（2）海取材動画 詳細

動画ID	A30
動画タイトル	SeaTrain 三陸♡旅する宝箱
動画コピー	SeaTrain 三陸♡旅する宝箱
Youtube 概要説明文	青森県と岩手県を走るJR八戸線。その路線は三陸海岸の魅力が詰まった路線の一つです。その路線の魅力を地元高校生が海の魅力を調査し、お弁当と冊子にまとめて乗車するお客さんに体験していただく列車「SeaTrain」 高校生が考えた魅力いっぱいの列車。ぜひ列車に乗った気分で三陸海岸の魅力を体験してみてはいかがでしょうか。



1-（2） 海の取材動画 詳細

動画ID	A31
動画タイトル	カフェ&ギャラリーうみ音 海を眺めて味わう幸せな時間海が見えるカフェうみ音 四季折々の海
動画コピー	カフェ&ギャラリーうみ音 海を眺めて味わう幸せな時間海が見えるカフェうみ音 四季折々の海
Youtube 概要説明文	カフェ&ギャラリーうみ音。ここでは三陸海岸の海を眺めて味わう幸せな時間を過ごすことができます。お店自慢のテラス席からは、八戸港や蕪島などが一望できます。そして、お店で提供している「うみ音ランチ」は地元で獲れる新鮮な食材がふんだんに使われていてその味も格別です。四季折々見える海の景色を見て優雅なひと時を味わってみてはいかがでしょうか。



1-（2） 海の取材動画 詳細

動画ID	A32
動画タイトル	未来の海洋人材を育む 海洋STEAM教育
動画コピー	未来の海洋人材を育てる海洋授業
Youtube 概要説明文	海洋STEAM教育は、未来を担う子どもたちに海の環境の変化や海と自分たちの生活の関わりなどを効果的学べる様、JAMSTECが開発した教材で、全国では先駆けて八戸市吹上小学校が去年から授業に取り入れています。子供たちの海離れがある一方でこのような授業を通して一人でも多くの子供たちに興味関心を持っていただきたいと思います。



1-（2） 海の取材動画 詳細

動画ID	A33
動画タイトル	灯台サミット2024 広がる灯台の可能性
動画コピー	灯台サミット2024 広がる灯台の可能性
Youtube 概要説明文	海と灯台サミット2024。11月3日に東京都内で行われ、近代日本の海上交通を守る道標として活躍した灯台の新たな可能性について多くの参加者が様々な視点から灯台の未来や、灯台について語り合いました。サミットでは灯台を活用したウエディングフォトなど日本各地の灯台と地域活性化の取り組みが紹介されました。日本財団の笹川陽平会長は「重要な海洋資産である灯台をどのように保存し、利活用していくかということが大変重要」と語りました。



1-（2） 海の取材動画 詳細

動画ID	A34
動画タイトル	青森の特産品 極上の旨み 焼きぼし
動画コピー	青森の特産品 極上の旨み 焼きぼし
Youtube 概要説明文	皆さん「焼き干し」という名前を聞いたことはありますか？「焼きぼし」は、毎年、9月から11月頃にかけて脂の乗った小型のいわしが水揚げされる時期に作られます。お味噌汁からそば、ラーメンなど日本伝統の「だし」。極上で濃厚なだしが取れる「焼きぼし」は、青森県の特産品です。その焼き干しが近年作る人が少なくなってきていて危機を迎えています。焼き干しの製造工程や焼き干しを使ったラーメン店「ひらこ屋 蛸ぼし」のこだわりなどを交えてご紹介します。



1-（2） 海の取材動画 詳細

動画ID	A35
動画タイトル	青森の特産品 極上の旨み 焼きぼし
動画コピー	青森の特産品 極上の旨み 焼きぼし
Youtube 概要説明文	皆さんはマリンチャレンジプログラムをご存知でしょうか？海の問題や課題解決などに挑戦する10代の研究者を応援するプログラムで、先月、全国の中高生研究者たちが集まって日頃の成果を発表する大会が、東京都内で開かれました。大会は、日本財団が取り組む「海と日本プロジェクト」の一環として開かれ、各地方大会で選ばれた中高生の代表あわせて15人が研究成果を披露。プレゼンでは環境に配慮した魚網の開発やサンゴやスズキといった海洋生物の生態など、自分たちが興味をもって取り組んできた研究について発表しました。



事業ID : 2024003616

事業名 : 海と日本PROJECT in 青森県（エリア・海と日本2024）

団体名 : 一般社団法人海と日本プロジェクトin青森県

極秘

2.プロジェクト訴求動画 制作・放送

2-(1) プロジェクト訴求動画リスト

動画ID	動画タイトル	放送期間	放送尺 (秒)	放送 回数
B01	秋の海ごみゼロウィーク2024	2024/9/20～2024/9/29	15秒	70回
B02	灯台ウィーク	2024/10/21～2024/11/8	15秒	15回
B03	海のごちそう	2024/11/1～2024/11/30	15秒	115回

2-(2) プロジェクト訴求動画

動画ID	B01
動画タイトル	秋の海ごみゼロウィーク2024
放送内容	秋のゼロゴミウィークに合わせて訴求動画を放送しました。



「海のために、今できること」 「秋の海ごみゼロウィーク」 共通サウンドロゴ

動画ID	B02
動画タイトル	海と灯台プロジェクト2024
放送内容	海と灯台ウィークに合わせて訴求動画を放送しました。



「11/1～8日は海と灯台ウィーク」 「灯台の写真やポエムなど X投稿コンテストを実施中 灯台へ行こう」 共通サウンドロゴ

動画ID	B03
動画タイトル	海のごちそうウィーク2024
放送内容	海のごちそうウィークに合わせて訴求動画を放送しました。



共通サウンドロゴ

事業ID : 2024003616

事業名 : 海と日本PROJECT in 青森県（エリア・海と日本2024）

団体名 : 一般社団法人海と日本プロジェクトin青森県

極秘

3.WEB運営

3-(1) WEB運営 <ニュースサイト投稿 記事一覧>

ニュースサイトURL: <https://aomori.uminohi.jp/>

No.	投稿日	記事タイトル
1	5月16日	6月9日(日)開催!親子サッカー教室 in むつ
2	5月29日	2024年6月29日(土)、30日(日)「あおもりむつ湾ホタテ調査団」イベント開催!
3	5月24日	青森の海で獲れるホタテの歴史とは?
4	5月25日	青森の海の幸と相性がいい地酒5選!
5	5月26日	青森の海でイルカと出会える?感動のイルカウォッチングスポット3選!
6	5月27日	青森の海で夏休みにおすすめのスポット5選!
7	5月28日	青森の海の特徴とは?青森の海はどんな海なのか?
8	5月29日	下北ジオパーク 猿ヶ森砂丘 海岸清掃
9	7月1日	しおかぜ遠足 - ウニむき体験
10	7月2日	浅虫海洋生物学教育センター創立100周年記念事業
11	7月21日	下北半島の大自然が生んだパワースポット「仏ヶ浦」
12	7月24日	本州最北端! 海と共に生きる大間町の魅力とは?
13	7月25日	蓬田中学校・地域貢献活動
14	7月27日	『海』をテーマに『宮本武蔵と巨鯨』青森ねぶた祭
15	7月28日	八戸市・蕪島 SUP YOGA見学
16	7月29日	海のそなえ フローティングアイテムをつけよう
17	7月30日	鶴田公民館アート教室 ひとりひとりの海を表現しよう!
18	7月31日	海のそなえ 海を安全に楽しむために①
19	7月31日	海のそなえ 海を安全に楽しむために②
20	8月15日	本州最北端! 海と共に生きる大間町の魅力とは?
21	8月16日	下北半島の海の幸、風間浦村のふのりを食べてみた
22	8月17日	魅力いっぱいベイエリアをみて、ふれて、感じる
23	8月18日	海軍の町・大湊でむつ市の歴史をたどる
24	8月31日	スポGOMI青森瑠璃AGE 開催(2024/10/12開催)
25	9月3日	『八甲田丸港フェスタ2024』が開催されました!
26	9月13日	『海洋研究開発機構 JAM瑠璃ECむつ研究所』の一般公開へ!
27	9月20日	下北半島 海の魅力を巡る旅
28	9月24日	地元の海をスターにしよう! うみぼす応募方法
29	9月28日	地元の海のごちそう『もりや食堂

No.	投稿日	記事タイトル
30	9月30日	青森県営浅虫水族館・飼育員のお仕事見学
31	6月10日	ホタテだけじゃない！魅力いっぱいの横浜町で自然を楽しもう
32	6月12日	海岸清掃に参加！自分たちの手でふるさとの自然を守ろう
33	6月12日	夏泊・大島ホタテ拾いと磯遊び
34	6月24日	漁船に乗ってカマイルカに会ってきました！
35	6月26日	尻屋崎で下北最古の大地を感じよう
36	6月30日	むつ市民が秘密にしたい！とっておきの釣りスポットを紹介
37	10月31日	育てる漁業・竜飛岬マツカワを次世代へ
38	10月31日	海洋研究開発機構(JAMSTEC)とむつ工業高の共同開発
39	10月31日	先人たちから引き継いだ育てる漁業・海峡サーモン
40	10月31日	八戸前沖さば 不漁ピンチから生まれた新商品
41	11月20日	青森と日本の海について「お寿司で学ぶ」授業が開催されました！
42	11月22日	漁師たちが企画「あおもりの漁師祭」へ行ってきました！
43	11月24日	本州最北端にあるしろくろ灯台とシンクロするべ〜！！「突端FES」開催！！
44	11月25日	18歳で青森県へ移住して佐井村の漁師へ
45	11月27日	青森の海の重要港湾とは？青森港・八戸港・むつ小川原港！
46	11月27日	荒波を乗り越え育む「海峡サーモン」
47	11月28日	青森の海が育んだ極上の味覚が勢ぞろい！青森の海鮮市場9選！
48	11月28日	青森の海にある2つのリアス式海岸とは？三陸海岸・泊海岸！
49	11月28日	未利用魚を使って水産加工に取り組む深浦の漁師さん
50	11月29日	青森の海に隣接する一生の思い出に残る眺望スポット5選！
51	11月29日	ウマヅラハギの水産加工に取り組む元漁師
52	11月29日	未来の海洋人財を育む 海洋STEAM教育
53	11月30日	青森の漁師直伝！青森の海で獲れる地魚8選！
54	11月30日	海に見えるカフェで味わう 四季折々の海
55	11月30日	外ヶ浜町 平館 だしの王様「焼き干し」

3-(2) WEB運営 ＜代表的なニュースサイト投稿 記事詳細＞

上半期の代表的な記事 1

下北半島の大自然が生んだパワースポット「仏ヶ浦」

<https://aomori.uminohi.jp/report/powerspot-hotokegaura/>

日本の秘境百選にも選ばれている仏ヶ浦を特集した記事。むつ市からも1時間半ほどかかる場所で気軽には行くことができない場所にあるため、紹介記事のアクセスが伸びたと考えられます。

公開日時 2024.07.23

下北半島の大自然が生んだパワースポット「仏ヶ浦」



下北半島には自然を満喫する観光地が多く存在しますが、そのなかでも有名な場所のひとつが仏ヶ浦（はとけうら）です。日本の秘境100選にも選定されています。

仏ヶ浦は青森県下北半島西部の、むつ市に存在します。下北半島の形は「まさかり」に似ているといわれていますが、そのまさかりの刃先の部分、ちょうど真ん中から下側にかけてあるイメージです。

今回は下北半島在住のわたしが実際に足を運び、仏ヶ浦の調査の歴史と、いまの姿をお伝えしています。まづも夏休み下北半島ですが、旅先からぜひお伝えしたい場所です。

これから仏ヶ浦に行きたいと考えている方は、ぜひ参考にしてくださいね。

下北半島1周の旅

むつ市街を10時半頃に出発。今回は車で、仏ヶ浦まで歩いてくることができました。フェリーで遊覧するコースもあるのですが、せっかくなので初めての旅。記念と経験のために歩くことにしました。

仏ヶ浦までは、バスが通ることが可能です。むつ市街からルートのひとつとして、川内町を経由するコースと、大畑町から人間を通りむつ市まで向かうコースがあります。

むつ市街から向かう場合は、川内町を通るルートの方が早く到着できるので、行きは川内町を経由し、帰りは大畑町を通って帰ることにしました。下北半島ぐるっと1周の旅です。



仏ヶ浦はもとも、仏（はとけ）と、アイヌ語で海辺・砂浜を意味する「ウタ」から、「佛宇陀（はとけうら）」とよばれていました。

仏ヶ浦の奇形や怪形の地形が、祖霊や神像、霊物の姿を連想させることから「仏の洞」とよばれ、仏ヶ浦の怪が祭られたといわれているそうです。奇形にはそれぞれ名前が付けられており、その多くは仏教に関連しています。

この写真は「五箇窟」とよばれる箇所です。



歩いていくことは大変ですが、この距離でもしっかりと体力が回復します。

こちらは「黒龍岩」。



3-(3) WEB運営 ＜代表的なニュースサイト投稿 記事詳細＞

上半期の代表的な記事 2

「海」をテーマに「宮本武蔵巨鯨」青森ねぶた祭

<https://aomori.uminohi.jp/report/%e3%80%8e%e6%b5%b7%e3%80%8f%e3%82%92%e3%83%86%e3%83%bc%e3%83%9e%e3%81%ab%e3%80%8e%5%ae%e6%9c%ac%e6%ad%a6%e8%94%b5%e3%81%a8%e5%b7%a8%e9%af%a8%e3%80%8f%e9%9d%92%e6%a3%ae%e3%81%ad%e3%81%b6%e3%81%9f/>

青森山田高校のねぶたを特集した記事。ねぶたは毎年注目を集めていますが、今年度は特に青森山田高校が海を題材としたことでwebサイト訪問者との親和性が高かったと感じます。



今年も青森ねぶた祭りの季節がやってきました。

ねぶた巨鯨『ラッセランド』には
今年出場する大型ねぶた22台分の小彫があります。



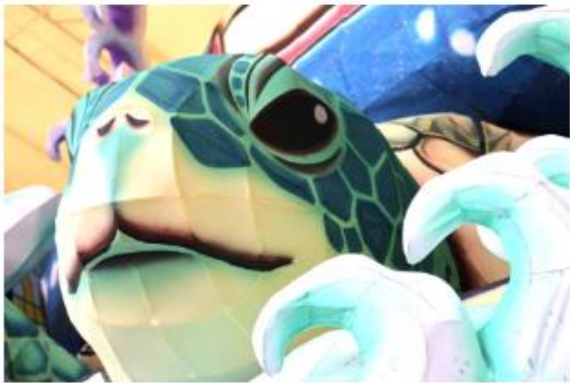
今日は青森がとっても印象的なねぶた
青森山田学園の大型ねぶた
『宮本武蔵と巨鯨』を制作した
ねぶた師・栗本利徳さんに会いに行ってきました。



ねぶた師になる前からこの絵をもとに下絵を描いていて、
最近になって、
海の海洋プラスチックの問題や海ごみの問題とかもテレビなどで耳かける機会が多くなってきたので
『海を守る』ことをテーマにしてねぶたを制作することで
絵についてみんなで一度考える機会を作れたらいいこの題材にしたそうです。



環太さんの好きな『エイ』や



海を代表する『ウミガメ』



3-(4) WEB運営 ＜代表的なニュースサイト投稿 記事詳細＞

下半期の代表的な記事 1

未利用魚を使って水産加工に取り組む深浦の漁師さん

<https://aomori.uminohi.jp/report/%e6%b0%b4%e7%94%a3%e5%8a%a0%e5%b7%a5%e3%81%ab%e5%8f%96%e3%82%8a%e7%b5%84%e3%82%80%e6%b7%b1%e6%b5%a6%e3%81%ae%e6%bc%81%e5%b8%ab/>

深浦町で未利用魚を使った漁師飯を提供している広福丸直売所の記事。未利用魚の関心の高さに加え、ウマヅラハギの独特のビジュアルの写真を記事に利用したことが閲覧数につながったと考えられます。



3-(5) WEB運営＜SNS運営＞

WEB運営の一環として、適宜X(旧Twitter)アカウントを活用。告知系情報や地域ならではの海の情報を発信した。

また、単にアカウントを運営するだけでなく、地元の担当が投稿を行うことで地域全体の海の情報を日常的に発信したり、他エリアや公式サイトと連携した情報発信を行った。

アカウント	https://twitter.com/umi_aomori
フォロワー数	4837名

▼代表的な投稿

【公式】海と日本プロジェクト in 青森県 @umi_aomori · 10月20日

昨日と今日の2日間
観光列車事業 Sea TrainをJR八戸線で走行しました！
この事業は三陸海岸の課題と魅力を地元の高校生がお弁当と冊子を使いながら表現！
多くのお客様に伝えることができました！

また来週土日開催するよ
#日本財団
#海と日本プロジェクト
#SeaTrain...
さらに表示



8

21

1,038

【公式】海と日本プロジェクト in 青森県 @umi_aomori · 7月18日

海底火山の活動によって作られた奇岩と、
エメラルドグリーンの海とのコラボレーション。
これが、#仏ヶ浦

#海と日本プロジェクト
#青森県
#絶景
#Aomori
#photo



19

77

2,681

事業ID：2024003616

事業名：海と日本PROJECT in 青森県（エリア・海と日本2024）

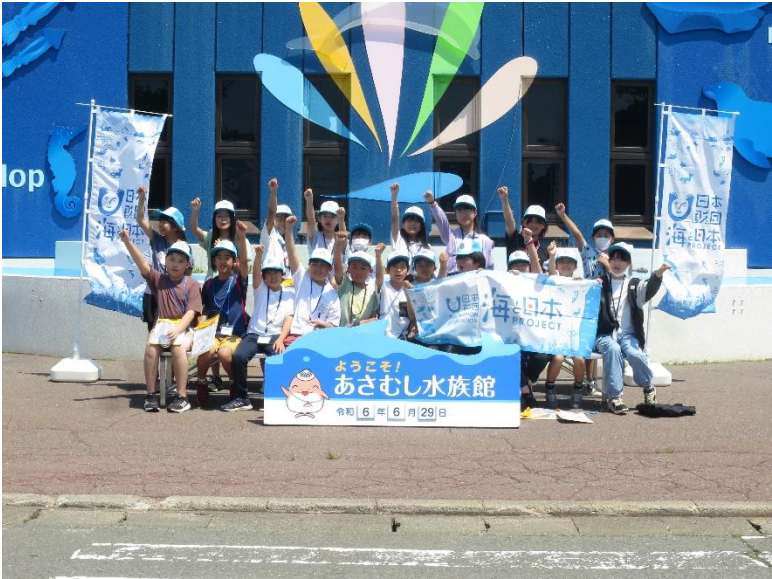
団体名：一般社団法人海と日本プロジェクトin青森県

極秘

04.オリジナル体験学習イベント

04-(1) オリジナル体験学習イベント開催概要

イベントタイトル	あおもりむつ湾ホタテ調査団
実施期間	2024年6月29日（土）～2024年6月30日（日）
開催場所	青森県（青森市・平内町・蓬田村）
参加人数	小学5, 6年生20 ※最終応募数132名から選考し参加決定
主催	一般社団法人 海と日本プロジェクトin青森県
協力団体	・共催：青森県営浅虫水族館 ・後援：青森県教育委員会・平内町漁業協同組合・青森県産業技術センター水産総合研究所
開催概要	<p>青森県を代表する特産品「ホタテ」は、生育の条件が整っている陸奥湾では養殖業が盛んに行われ、北海道に次ぐ生産量を誇ります。しかし、近年の気候変動の影響により陸奥湾の海水温が上昇し、多くのホタテの稚貝が死んでしまっているといえます。このままでは、長期的にみて青森県が誇るホタテの生産に大きな影響が生じるおそれがあります。また、残渣（養殖かごに付着している貝類など）の処理にも課題があります。自治体の焼却処分にも限界があり、悪臭や環境破壊などの問題を及ぼしています。</p> <p>今回のイベントでは、青森県が誇る「陸奥湾ホタテ」について、「高水温」と「残渣」の2つの課題をテーマとして、子どもたちにホタテ養殖における「解決しなければならない課題」を知ってもらい、解決策を考え、地域の宝であるホタテを自分事として認識してもらうことを目標としています。</p> <p>発表とアウトプット ホタテは資源であることを学び、たくさんの人に陸奥湾ホタテに興味を持ってもらいたいという気持ちから、イベントの集大成として一人ひとりがイラストを描きました。 イラストはホタテの貝殻をリサイクルして製造したチョークのパッケージに採用され、青森県内の全小学校5.6年生へ寄贈しました。</p>



04-(2) オリジナル体験学習イベント詳細

イベント詳細	<p>1.なぜ陸奥湾はホタテ養殖が盛んなのかを学ぶ 講師: 久保真司(青森県営浅虫水族館) 調査団が最初に向かったのは青森港北防波堤西灯台、通称「アスパム灯台」。浅虫水族館の久保さんから、陸奥湾がホタテ養殖に適している理由を教わりました。 その後は浅虫水族館へ移動し、ホタテの基礎的な生態をクイズ形式で学びました。 また、ふれあい水槽では生きているホタテの上にヒトデを乗せるとどのような反応を示すのかななどを、実際に生きたホタテを触って体験しました。近年は陸奥湾の高水温が続きホタテの稚貝の大半が斃死してしまい、陸奥湾のホタテ養殖が苦境に立たされていることも知りました。</p> <p>2. ホタテ漁の見学 講師: 田村義夫 1日目の午後は、ホタテ漁師さんの船に乗せてもらい、実際のホタテ漁の様子を見学しました。 漁具を海から引き上げる時、様々な付着物がありましたが、海水温が上がったことによって付着量も多く、これまで見られなかった種類も多いとのこと。陸奥湾で起きている課題や、漁師さんたちの苦労を目の当たりにしました。実際に漁をしているところを見学しないと分からないことがたくさんあり、子どもたちも興味津々でした。</p> <p>3.水産総合研究センターでホタテの研究に触れる 講師: 水産総合研究センターの皆様 水産総合研究所は海水温をリアルタイムで計測しています。高水温に弱いホタテの斃死を防ぐためには海水温の予測の精度を上げて、高水温が予想される場合は事前に水深の深い場所にホタテを移動させることが重要です。子どもたちも実験器具を触って、ラーバと呼ばれるホタテの赤ちゃんを観察したりと、普段見ることができない世界に驚いていました。</p> <p>4. ホタテ残渣のゆくえを学ぶ 講師: 蓬田村ホタテガイ養殖残渣堆肥化処理施設・株式会社山神 ホタテの身以外の部分、貝殻や養殖かごに付着している異物、いわゆる残渣(ざんさ)のゆくえを調査しました。 残渣は焼却処分や埋め立てが追い付かず、悪臭を放つため問題になっています。その厄介な残渣を再利用する取り組みがあることを知り、2つの施設を調査しました。 最初に伺った株式会社山神の残渣保管所では、自社で養殖したホタテから発生した貝殻等からマニキュアや洗剤を作っています。 もう一つの活用方法として、蓬田村ホタテガイ養殖残渣堆肥化処理施設では残渣を堆肥に加工しています。</p> <p>5.発表とアウトプット ホタテは資源であることを学び、たくさんの人に陸奥湾ホタテに興味を持ってもらいたいという気持ちから、イベントの集大成として一人ひとりがイラストを描きました。 イラストはホタテの貝殻をリサイクルして製造したチョークのパッケージに採用され、青森県教育委員会教育長宛に寄贈式を行い、その後青森県内の小学校へ寄贈しました。</p>
--------	--

事業ID：2024003616

事業名：海と日本PROJECT in 青森県（エリア・海と日本2024）

団体名：一般社団法人海と日本プロジェクトin青森県

極秘

04-(3) オリジナル体験学習イベント写真

《1日目》





《2日目》



《アウトプット》



04-(4) オリジナル体験学習イベント その他

応募施策について	<div><div>・目標応募人数</div><div>130名</div><div>・最終応募人数</div><div>132名</div><div>・実施した応募施策</div><div>テレビCM、チラシ、X</div></div>
その他の自主的な取組	<div><div>・SNSでの施策</div><div>Xからも募集フォームへの誘導を行ったことで、X経由での応募も複数獲得することができた。</div><div>イベント当日はリアルタイムでの投稿を行い、SNSを積極的に活用した。</div><div>保護者からも、子供が今どこにいるのかなどをXで知ることができて安心することができたといった声が上がった。</div></div>
課題と対応案	<div><div>熱中症予防のために飲料を用意したが、猛暑ということもあり想定以上に飲料の消費が早く、途中で買い出しをする必要があった。また、用意した水やスポーツドリンクはすべての子供が飲めると想定していたが、実際には麦茶しか飲めない子供なども複数いた。今後は飲料の予備を増やし、苦手な飲料は応募時に事前にチェックするなどの対応を考えている。</div></div>
配布物	<div><div>①募集チラシ2万部</div><div>②学習ノート20部</div><div><div></div><div></div></div></div>

04-(5) オリジナル体験学習イベントメディア露出状況

自社媒体	
<div>募集告知</div> <div></div>	<div>海の取材動画 2024年7月10日</div> <div></div>
他媒体	
<div>案内状・メディア声掛け先</div> <div>案内状・メディア声掛け先</div> <div>・青森県政記者会</div> <div>(東奥日報・デーリー東北・陸奥新報・河北新報・朝日新聞・毎日新聞・読売新聞・産経新聞 日本経済新聞・共同通信・時事通信・NHK・青森放送・青森朝日放送・フジテレビ青森支局)</div>	

事業ID：2024003616

事業名：海と日本PROJECT in 青森県（エリア・海と日本2024）

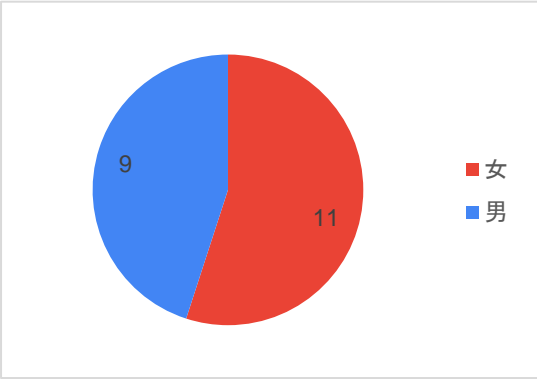
団体名：一般社団法人海と日本プロジェクトin青森県

極秘

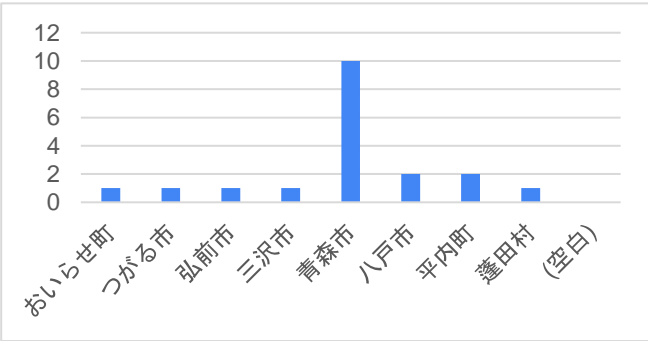
～事前事後アンケート集計データ～

事業ID	2024003616
事業名	海と日本PROJECT in 青森県（エリア・海と日本2024）
団体名	一般社団法人海と日本プロジェクト i n 青森県

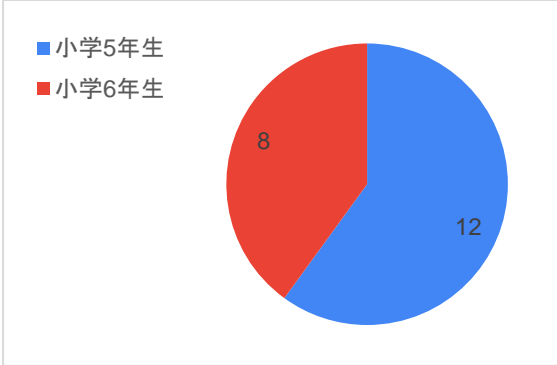
Q1あなたの住んでいるところを教えてください。



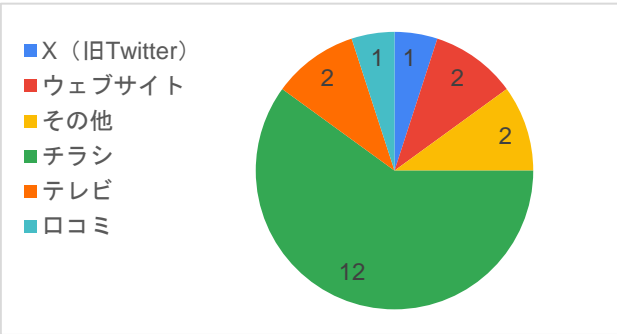
Q3あなたについて、当てはまるものを選んでください。



Q2あなたの学年を教えてください。



Q4このイベントを何で知りましたか？



Q5このイベントに参加したい理由やイベントでやってみたいことなどを自由に記載ください。

登録順10件

ホタテが大好きだから！ホタテのヒミツを知りたい。

海の生物についてたくさん知りたいです

小さな頃から海のことに興味があり、身近な陸奥湾、そして大好きなホタテについて学べる企画だったので参加したいと思いました。また、海やホタテに同じように興味のある同世代の友達を作りたいと思い、参加を希望しました。

ホタテが美味しくて大好きです。実際に採れるところをみてみたいです。

普段あまりこのようなイベントに参加したことがないので、小学生最後の思い出づくりに。

魚が好きで海の生き物や環境に興味があり、貝についても知りたいと思ったので応募しました。また、ホタテの殻は何かに見えるのか、なぜホタテが美味しいのか、なぜ盛んなのかを知りたいです。

大好きなホタテを育てる所から学べる機会なんて滅多にないので、是非参加したいと思いました。

ホタテの生態やどうやってホタテ養殖について知りたかったからです。漁船に乗ってホタテ養殖を間近で見てみたいです。

私は青森県が大好きなので、青森県のいろいろなことを知りたいと思っています。自分でホタテの殻を取って、お刺身にしたりいろいろな料理を作ったりしてみたいです。

美味しいだけでなく、どうやって海の中に暮らしているのか、食べた後の殻はどうなるのか知りたいです。

事業ID：2024003616

事業名：海と日本PROJECT in 青森県（エリア・海と日本2024）

団体名：一般社団法人海と日本プロジェクトin青森県

極秘

05. 地元教育機関との連携事業

＜みんなと考える取り組みたい 青森と日本の海 青森版＞

05-(1) 地元教育機関との連携事業 開催概要

企画名	みんなと考えて取り組みたい 青森と日本の海 青森版
実施期間	2024年4月1日(月)～2025年3月31日(月)
開催場所	2024年9月9日(月)10時20分～12時00分 <八戸市立新井田小学校> 2024年10日(火)10時25分～12時00分 <弘前市立青柳小学校> 2024年11日(水)10時35分～12時10分 <青森市立三内小学校> 2024年13日(金)10時25分～12時00分 <十和田市立北園小学校>
参加人数	八戸市立新井田小学校6年生89名 弘前市立青柳小学校3～6年生26名 青森市立三内小学校6年生52名 十和田市立北園小学校4年生84名
主催	一般社団法人 海と日本プロジェクトin青森県
協力団体	青森県教育委員会・青森県漁業協同組合連合会・くら寿司株式会社・TWF Marketing合同会社
開催概要	2017年度学習指導要領の改定で「海洋教育」が小中学校の社会科に組み込まれたことに続き、2020年度に改定された学習指導要領では「持続可能な開発のための教育(ESD)」の理念が組み込まれました。 青森県の教育現場からは地域差の影響もあり、海洋教育に適した教材を求める声が多く上がっていました。くら寿司株式会社の協力を得て、海が身近にある子ども、海が身近にない子どものどちらにとっても親しみやすい「寿司」という食文化を通して青森の海について学ぶ出張授業を開催しました。 実施した授業をベースに「青森の海」「海洋資源」「食育」をテーマに青森県に特化した内容のプログラムを作成し、実際に青森県内で出張授業を行った様子などを素材に、青森県教育委員会後援の元で今後も授業で使える「教材用動画」を作成し、県内の小学校へ展開することで青森県内の小学生を対象とした学びの機会を作ります。



05-(2) 地元教育機関との連携事業 イベント詳細

イベント詳細	<p>青森県は、三方を海に囲まれています。県土が広大なため沿岸の地域と内陸の地域で海への親しみに差があると言われております。海と日本プロジェクトin青森県では、25年の3月の活用に向けて、青森県の海洋に特化した動画教材を製作しています。出張授業は動画教材製作の一環として実施し、授業の様子やフィードバックをもとに動画教材へ盛り込みます。</p> <p>今回は、子ども達になじみのある「寿司」という身近な食文化をきっかけに、青森の海、自然環境、食品ロス、魚の多様性と低利用魚の存在など、海と日本と自分たちの生活を関連付けて学んでもらうことを目的に、食品ロス対策や低利用魚の商品化など先進的な取り組みをしており、全国各地で出張授業を実施しているくら寿司株式会社と共同で出張授業を開催いたしました。</p> <p>出張授業を実施した小学校は、青森県の津軽地方と南部地方という文化が異なる地区から2校ずつ、その2校も沿岸部の小学校と内陸部の小学校に分けて、県内の様々な地域の子どもの反応を見られるように選定しました。</p> <p>どの学校の子ども達にも共通していたことは、お寿司が好きだということです。お寿司の話題になると全員が興味津々。授業の中では精巧な魚の模型を使用して一般に流通している魚と使用されにくい魚を予想する場面で、魚の大きさや重さに驚いたりと非常に盛り上がりました。</p> <p>また、青森県内の漁師さんへのインタビュー映像では、昔は捕れた魚が捕れなくなっている問題や、漁師の後継者不足、海洋ごみ問題などについても学びました。</p> <p>授業を通して、子どもたちからは「青森の海を綺麗にしたい」「低利用魚などを食べてみたい」「青森の海に興味を持った」などの声が上がリ、海の現状を真剣に受け止め海への関心が大きくなった様子が見られました。</p> <p>この授業によって得ることができた子ども達の反応などを踏まえ、青森県内全域で使用可能な動画教材の製作を目標としています。</p>
--------	---

事業ID：2024003616

事業名：海と日本PROJECT in 青森県（エリア・海と日本2024）

団体名：一般社団法人海と日本プロジェクトin青森県

極秘

05-(3) 地元教育機関との連携事業 イベント写真


《出張授業の様子》



《動画教材》



05-(4) 地元教育機関との連携事業 その他

<p>メディア露出</p>	<p>海の取材動画 2024年12月9日</p>  <p>回転寿司チェーンくら寿司による 出張授業 みんなと考える取り組みたい 青森と日本の海 2024年9月9日(月)</p> <p>八戸市立 新井田小学校★</p> <p>デイリー東北 陸奥新報</p>
<p>その他</p>	<p>くら寿司の協力を得て実施した出張授業は、青森県教育委員会や小学校と緊密に連携したことで各市町村の教育課や教育関係者から注目を集め、授業当日に複数の視察がありました。</p>
<p>課題と対応案</p>	<p>小学生向けの動画教材を作るうえで、児童の集中力を切らさないことが課題でしたが、コール＆レスポンスやシンキングタイムを盛り込むなど対策をしました。</p>

事業ID：2024003616

事業名：海と日本PROJECT in 青森県（エリア・海と日本2024）

団体名：一般社団法人海と日本プロジェクトin青森県

極秘

06.SeaTrain ～三陸海岸の魅力を学ぶ旅～

06-（1）自由提案企画 開催概要

企画名	SeaTrain～三陸海岸の魅力を学ぶ旅～
実施期間	2024年10月19日（土）～2024年10月27日（日）
開催場所	八戸市 久慈市
参加人数	120人（小学年生6名、大人114名）
主催	一般社団法人 海と日本プロジェクトin青森県 一般社団法人海と日本プロジェクトin岩手
協力団体	東日本旅客鉄道株式会社 学校法人千葉学園高等学校 岩手県立久慈東高等学校
開催概要	<p>一般社団法人海と日本プロジェクトin青森県と一般社団法人海と日本プロジェクトin岩手は、青森県の県南から岩手県の県北を走るJR八戸線を使用した三陸海岸の魅力を伝える列車「SeaTrain」を2024年10月19日（土）～2024年10月27日（日）の土日2週にわたって開催しました。このイベントは、次世代に豊かで美しい海を引き継ぐために、海を介して人と人とがつながる“日本財団「海と日本プロジェクト」”の一環です。</p> <p>三陸沿岸を走る八戸線は美しい車窓スポットを持つ魅力的な路線ですが、乗客数が低迷し、その魅力が十分に伝わっていません。魅力を発信するためには、地域の人々がその魅力に気づき、特に高校生など若い世代を巻き込んで幅広い世代に訴える必要があります。地元の高校生が三陸の海の魅力を調査し、その成果物を活用して特別列車を運行するとともに、久慈駅で観光施設での見学・体験イベントを行いました。地元高校生が、三陸の海の魅力を自分たちで作った「お弁当」と「パンフレット」で表現し、乗客していただく皆さまに発信を行う事業です。乗客していただく皆さまには「海と日本プロジェクト」が進める、海の状況を伝え海の未来へつないでいくための1つのイベントとして、参加した皆さんからも広げてほしい、という思いをのせてこの列車が走ります！今回はこの列車でしか味わえない、体験できない「海」のプログラムでお届けしました。</p>



06-（2） 自由提案企画 イベント詳細

<p>イベント詳細</p>	<p>①SeaTrainについて 事前フィールドワーク</p> <p>「地元の海を知ってもらうためにまずは高校生が主体となって魅力を伝える」をテーマに三陸海岸の魅力を満喫できる「SeaTrain」特別体験ツアーを全4回にわたり開催。</p> <p>地元高校生が三陸海岸の現状や課題をフィールドワークで調査して、青森県の千葉学園高等学校の生徒が考案したお弁当には、地元食材をふんだんに使い、三陸の味を一口ごとに楽しめる工夫が凝らされています。</p> <p>また、列車内では岩手県久慈東高等学校の生徒が制作した特製冊子を配布。冊子には、三陸海域の現状、青森県・岩手県の観光名所が豊富に掲載されています。三陸の海の恵みがどのように育まれ、未来へと引き継がれていくのかを学び、海への理解と関心を深めていただける内容となりました。</p> <p>②SeaTrainオリジナルお弁当・オリジナル冊子</p> <p>＜オリジナルお弁当＞</p> <p>青森県にある学校法人千葉学園高等学校の調理科の生徒が三陸海岸の課題や魅力について調査を行い、1つのお弁当箱に表現しました。</p> <p>お弁当の名前は、「三陸♥旅する玉手箱」</p> <p>三陸海岸の魅力が食べただけで伝わってくる、心から美味しいと感じていただけるようなお弁当にしたいという思いからレシピを考えました。</p> <p>＜オリジナル冊子＞</p> <p>岩手県にある岩手県立久慈東高等学校の情報ビジネス系列の生徒が三陸海岸の課題や魅力について調査委を行い、オリジナルの冊子に魅力をまとめました。</p> <p>冊子の名前は「SeaTrain Guide Book～八戸から久慈まで見て楽しむ一冊！～」この冊子は高校生が自ら調査した結果、地元の魅力や大切さそして、他の地域に自慢できる内容がびっしり詰まっている一冊に仕上げました。</p> <p>③SeaTrain 三陸海岸学びポイント</p> <p>ツアーの中で海と日本プロジェクトとしての学びポイントは3つ</p> <p>（1）列車内での三陸海岸を見て学ぶ</p> <p>JR八戸線沿線の車窓から三陸海岸の絶景を楽しむツアーを通じて、蕪島や鮫角灯台、種差海岸などの景観やその歴史・文化を学びました。さらに、地域の漁業や生活への影響、自然が育む生態系の多様性や景観の美しさに触れることで、三陸地域の環境保全の重要性を理解する機会を得ました。</p> <p>（2）列車内で提供したオリジナルお弁当で三陸の海の魅力を体験</p> <p>青森県千葉学園高等学校の生徒が手掛けた特製弁当が列車内で提供され、三陸の海の幸を堪能しました。地元食材を使った料理は三陸ならではの食文化を感じさせ、参加者からは「地元の魚介の味を楽しめた」「若者の取り組みに共感した」と好評でした。この体験を通じて、三陸食材の魅力や地域の若者による海洋文化への関心が伝わりました。</p> <p>（3）久慈市での地元ウニの畜養場と北限の海女さんの見学</p> <p>久慈市でウニ畜養場を訪れ、ウニの育成や漁業技術について学んだ後、「北限の海女さん」たちの伝統的な潜水漁を見学しました。自然環境に適応した漁業技術と厳しい環境への挑戦を通じて、地域文化と産業を守る海女さんたちの誇りと伝統に触れる貴重な体験となりました。</p> <p>今回の「SeaTrain」ツアーを通じて、三陸の自然環境、地元の食文化、そして地域特有の伝統漁業を幅広く学ぶ機会が提供され、参加者の皆さまに海と日本プロジェクトの理念を感じていただくことができました。このツアーで得た学びが、参加者一人ひとりの中で海の大切さや保全意識の向上につながることを期待します。</p>
---------------	---

事業ID：2024003616

事業名：海と日本PROJECT in 青森県（エリア・海と日本2024）

団体名：一般社団法人海と日本プロジェクトin青森県

極秘

06-（3） 自由提案企画 イベント写真

《SeaTrainについて 事前フィールドワーク》



《SeaTrainオリジナルお弁当・オリジナル冊子》



《SeaTrain 三陸海岸学びポイント》



《その他》



06-（4） 自由提案企画 その他

<p>メディア露出</p>	<p>告知 2024年9月11日～10月9日60本 海の取材動画 202411月25日</p> <div></div> <p>IBC岩手放送 海の取材動画 2024年11月11日 15：46～15：49</p> <div></div>
<p>その他</p>	<p>参加者の皆さんからこのような素晴らしいイベントを企画していただきまた来年もあったら参加したいというご意見を頂きました。 そのほか、地元高校生が自ら課題解決や表現をすることがこのイベントの醍醐味台と思うのでぜひともこのようなイベントを多く作って発信してほしいというコメントをいただくことが来ました。 そしてこのイベントを通してお弁当と冊子という2つの表現方法を用いたが、お弁当の包みふろしきや記念切符などの形に残る物を差し上げることで、参加していない方々にも届く可能性があることを改めて知るきっかけとなりました。</p>
<p>課題と対応案</p>	<p>青森県八戸市と岩手県久慈市を結ぶ企画でしたが出発地点が青森県側からのため岩手県からの参加者が1名しかいなく立地条件を改めて企画段階から考える必要があります。 当初は親子という形での参加イベントで考えており、子供も同じような食事メニューでと考えていたが、実際開催してみると子供には量が多く子供向けの食事内容を制作する必要がある。 当日高校生にも乗車していただき本企画の実施してみでの事柄や、制作物の説明などを行い、参加者の方々に寄り添った内容としたが、参加者より質問事項が飛んできた際に何名か答えることができない生徒もいたのでいくつかの参考文章を作っておく必要があります。</p>